

2010年10月23日

環境大臣 松本 龍 様

(社) 北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙

北海道における新しい国立公園の指定、とくに「日高山脈・夕張山地」を
国立公園として早期に指定することの要望書

環境省はこのたび、新たに指定または拡張すべき国立・国定公園の候補地として全国的な視野から18カ所を選定し、そのうち北海道の国立公園候補地として「日高山脈・夕張山地」「知床半島基部」「道東湿地群」の3カ所が含まれることを公表しました。

これら北海道の候補地は、いずれも国立公園として優れた資質を有していると考えられますが、今後、具体的にどの部分が公園区域に含まれ、どのように保護・利用されることとなるかが注目されます。当協会は、いままで指定された日本の多くの国立公園が、高度経済成長時代を中心として過剰な観光利用などのために開発が許容されてしまったのに対して、新しい国立公園は、地球環境時代にふさわしく生物多様性保護に立脚した、自然保護重視型の国立公園として具現化されるべきものと期待しております。

とりわけ「日高山脈・夕張山地」については、すでに当協会が環境大臣宛てに2006年1月30日づけで「日高山脈と夕張山地を新たな国立公園に指定することの要望書」（別紙添付資料）を提出しております。私たちは、その要望の趣旨も勘案されて今回、候補地に選定されたものと理解し、一歩前進したことを喜んでおります。

ところで、「日高山脈・夕張山地」候補地は、場合によれば、すでに指定されている日高山脈襟裳国定公園の区域拡張として夕張山地を包含する可能性も残されていると新聞紙上で伝えられております。しかし、「日高山脈・夕張山地」は、一体となった国立公園として傑出した資質を備えておりますので、国定公園ではなく、国立公園として早期に指定するため特段のご配慮をいただけますよう、ここに改めて強く要望いたします。

「日高山脈・夕張山地」が、なぜ国定公園でなく国立公園であるべきかの理由については、当協会が2006年1月30日づけで提出した要望書（別添資料）に網羅的に記述しておりますが、ここでは以下に3点を強調しておきます。なお、林野庁長官および北海道知事に対しては、本要望書の写を添え、別紙写のとおり要望いたしましたので、ここに申し添えます。

記

1. 日高山脈・夕張山地は、我が国の生物多様性保全にとって極めて重要な地域であること

「日高山脈・夕張山地」は、固有植物や著しい隔離分布を示す希少植物に富む植物相を筆頭にして多様な動植物から構成される生物相を有し、我が国の生物多様性保全にとって極めて重要な地域である。例えば、北海道内の主な自然公園で固有植物数を比較すると、大雪山の14分類群と知床の4分類群に対して、日高山脈と夕張山地ではそれぞれ23分類群と22分類群が数えられ、後二者を合わせた日高山脈・夕張山地全体として傑出した固有植物の多さが特徴となる。その理由として、第一は、アポイ岳や夕張岳などにおいてカンラン岩や蛇

紋岩と結びついて分化した、一山岳あるいは日高山脈・夕張山地に固有な超塩基性岩植物が多いこと、第二は、日高山脈の中腹に散在する崖地や夕張岳の岩峰群を構成する輝緑岩地でも、同様にこれらの山域に固有な輝緑岩類植物や希少植物が認められること、そして第三は、夕張山地北部の唾山において北海道に固有な石灰岩植物や希少植物が多いことである。以上の特徴は、一体の構造山地として形成されてきた日高山脈・夕張山地の地史を背景として、この山域では、地質の違いに応じた植物の進化・分化や分布過程における特殊岩地への遺存が生じたことを示唆する。他方、第四の理由として、ヒダカミツバツツジのような北海道固有植物やコゴメウツギ、モミジショウマなどの著しい隔離分布種は、ルーツを南方系とする希少植物であるが、日高山脈南部の山麓域に集中して認められることが挙げられる。このことは、日高山脈南部が地史的な寒冷期に道南の渡島半島部や東北地方とは隔絶された、南方系植物のレフュジアであったことを示唆している。

高標高で寒冷なカール地形が残された日高山脈北部～中部、気候が温暖な日高山脈南部、そして比較的標高でも北方系植物の遺存や分化に大きな役割を果たしたカンラン岩・蛇紋岩・輝緑岩類・石灰岩などの特殊岩地のように、多様な自然環境が国内でも傑出した多様な生物相を支えているのである。

2. 日高山脈・夕張山地は、国有林・道有林が大半を占めるので、IUCNの「Ⅱ型」に相当する日本では数少ない、国際的に認められる国立公園となり得る高い資質を備えており、国の責任で保護・管理すべきこと

我が国の国立公園は、公園以外の目的に供される私有地・公有地・国有地を含む「地域制公園」であり、土地所有権などの権原に基づき厳正に自然保護ができる「営造物公園」ではない。そのため、IUCN（国際自然保護連合）が定める自然保護地域の類型区分によると、我が国の国立公園は多くが「Ⅱ型」の国立公園ではなく、「Ⅴ型」の自然景観保護地域と見なされている。

そうした中で「日高山脈・夕張山地」の国立公園として想定される区域は、その大部分が国有林と道有林に属し、民有地がほとんど含まれていない。また、近年の国有林・道有林の森林・林業政策は、木材生産重視から森林の公益的機能重視に大きく転換されたので、国有林・道有林当局の特段の理解と協力が得られるならば、「公園の指定目的に反する開発や居住を排除する」厳正な保全を行うことができる。これらのことから、とくに「日高山脈・夕張山地」は、日本では数少ない、IUCNの「Ⅱ型」に相当する国立公園と見なされ、地域制公園でありながら事実上は営造物公園として、国際的に認められる国立公園の機能を発揮できる可能性を有している。

今回の環境省による候補地選定において、「日高山脈・夕張山地」は国定公園の区域拡張の扱いとなる余地もあると新聞紙上で伝えられているが、IUCNの「Ⅱ型」となり得る資質を有する自然は、国立公園として、国の責任で適正に保護・管理を図るべきものである。

3. 日高山脈は日本最大の「原生流域」を包含しており、知事管理の国定公園よりも国管理の国立公園の方が、厳正な保全を期待できること

一つの可能性として報じられたように、「日高山脈・夕張山地」を知事が管理する国定公園のまま区域拡張で夕張山地を包含させる場合には、知事が道道に認定した日高横断道路(道

道静内中札内線)の扱いをめぐって、厳正な保全を期し難いことが懸念される。

日高横断道路は広範な自然保護世論の高まりに押されて2003年に工事が「凍結」され、事実上中止されている。しかしながら、知事としては国の「開発道路」への遠慮があると思われ、また長年にわたり建設工事が続行されてきた事業を自ら全面的に否定することが困難なためと思われるが、その「凍結」に際して述べられた知事の公式説明は、「道路整備の意義は変わらないが、今後、多額の事業費と長い時間を要する」ので「当分、新規の改築工事は行わない」というもので、凍結に自然保護や生物多様性保全に関する理由は認められない。ここでいう「道路整備の意義」とは、自然公園における公園利用計画には該当しない(公園事業ではない)車道であり、公園区域外の地域活性化を図るため必要とする「広域幹線道路」である。このように、日高横断道路は、論理的には工事再開が可能な余地を残しているのである。

ところで日高山脈は、前項までに指摘した特徴の他に、日本最大の「原生流域面積」を有する原始境である(平成13年版・環境白書)。環境省の第4回自然環境保全基礎調査「河川調査」によると、日高山脈襟裳国定公園の原生流域面積は、流域数20、総面積約47,820haの内訳で第1位となり、第2位の大雪山国立公園(流域数7、面積16,930ha)や第3位の白神山地自然環境保全地域(流域数4、総面積12,648ha)と比較して、突出している。このような日高山脈を知事が管理する国定公園のままにするならば、原生流域を二分するような日高横断道路の建設が再開される懸念が残るので、国際的に高く評価できる資質を有する当該地域の自然を厳正に保全するためには、知事に管理を任せる国定公園ではなく、国が責任をもって国立公園とすべきものである。

2010年10月23日

林野庁長官 皆川 芳嗣 様

(社)北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙

北海道における新しい国立公園の指定、とくに「日高山脈・夕張山地」を
国立公園として早期に指定することの要望書

このことについて当協会では2006年1月30日づけで林野庁長官あて「日高山脈と夕張山地を新たな国立公園に指定することの要望書」（別紙添付資料参照）を提出しましたが、このたび環境省では新しい国立・国定公園の指定候補地として全国から18地域を選定したことが公表されましたので、本日、別紙写のとおり環境大臣あて要望書を提出いたしました。この国立公園が実現されるためには、「国民の森林」として公益的機能を重視する国有林当局の特段のご理解とご協力が不可欠であります。

その基本的な考え方は、2006年1月30日づけ要望書に記載したとおりでありますので、その趣旨を踏まえ、特段のご配慮をいただけますよう、お願い申し上げます。

2010年10月23日

北海道知事 高橋はるみ 様

(社)北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙

**北海道における新しい国立公園の指定、とくに「日高山脈・夕張山地」を
国立公園として早期に指定することの要望書**

このことについて当協会では2006年1月30日づけで北海道知事あて「日高山脈と夕張山地を新たな国立公園に指定することの要望書」（別紙添付資料参照）を提出しましたが、このたび環境省では新しい国立・国定公園の指定候補地として全国から18地域を選定したことが公表されましたので、本日、別紙写のとおり環境大臣あて要望書を提出いたしました。この国立公園が実現されるためには、日高山脈襟裳国定公園および富良野芦別道立自然公園の管理者としての知事、北海道有林管理者としての知事、道道静内中札内線の管理者としての知事、さらには北海道の観光振興を道政の基本に掲げる知事など、多面的に北海道知事の特段のご理解とご協力が不可欠であります。

その基本的な考え方は、2006年1月30日づけ要望書に記載したとおりでありますので、その趣旨を踏まえ、特段のご配慮をいただけますよう、お願い申し上げます。

